

## 実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	指宿スカイラインの魅力向上に向けた基礎研究
助成事業者	一般財団法人鹿児島県環境技術協会
代表者	理事長 宮廻 甫允 (申請者 清水建司)

### (目的)

本研究では、指宿スカイラインを事例として、来訪者等の流動性を高める方策を検討する。

周辺観光地等との連携による利用促進、指宿スカイラインの新たな観光資源の開発等、道路の魅力を高めることによる利用促進等により、来訪者等の流動性を高める方策について検討する。

それらを取りまとめて、南薩地域の地域振興・観光振興等も視野に入れながら、指宿スカイラインそのものの魅力を高め、活性化を図るために必要な提言を行う。

### (背景)

指宿スカイラインの総体的な利用者は、平成10年頃以降は漸増状態にある。Ⅱ期区間についてみると、供用開始時からⅢ期区間供用開始まで年間14万台程度の通行量でほぼ定常状態にあったが、昭和63年にⅢ期区間の供用開始により約3倍に増加した。しかし通行量は平成3年頃をピークに下落傾向にあり、近年ではⅢ期区間供用開始前の水準にまで落ち込んでいる。Ⅱ期区間の利用量を増やすことは、今後の指宿スカイラインの総体的なサービスを維持していく上において重要な課題となっている。

### (概要)

平成30年度の研究で、指宿スカイラインの魅力創出のための基本的事項についての調査を行った。そのなかで、道路利用者を総体的に向上させるには、道路の利便性を高めることに加えて、道路を使用する目的の多様化が必要であると考えられた。指宿スカイラインについては、道路のⅡ期区間の利用者を増加させることがポイントとなる。

使用目的の多様化により利用者を増加させるためには、「沿道の魅力」「展望施設の魅力」「周辺地域とのつながりを活かした魅力」の3つの魅力を向上させることが必要と考えられるため、それらの項目を整理するために必要な情報の整理・現地調査を実施した。あわせて、この道路の魅力の要素である景観の確保に関して必要となる、樹木の伐採管理の効率的な実施方法について検討した。

#### <展望施設の魅力を増す>

展望施設についても、それぞれの個性を抽出し、それに沿った「魅力」を創出する整備・運用を行って、展望施設に立ち寄る「意義づけ」ができるようにする内容について整理した。現在の個性とそれに加える・創出する個性や、来訪者が楽しめる仕掛けの設定とそれに向けた管理運用を行って、眺望+αの楽しみ方が提案できるような仕掛けについて整理した。

その結果、各展望台について以下のようなテーマ設定し、そのための演出や管理運営を提案した。

- ・ 錫 山：木漏れ日の癒やし空間
- ・ 須々原：スリルのある絶景とちょっとおいしい木の実がある空間
- ・ 川 辺：恋人達の公園
- ・ 錦江台：みえる・さわれる・感じられるスカイライン植物園
- ・ 知 覧：緑陰を自分スタイルで楽しむ秘密の空間

スカイライン魅力を増すための施設利用の方策について、以下のようなテーマやコースなどを設定し、そのための演出や管理運営方法を提案した。

- ・ 季節の草花を楽しむ
- ・ 夜景を楽しむ
- ・ こどもと楽しむドライブコース
- ・ カップルで楽しむドライブコース
- ・ 植物愛好家のドライブコース
- ・ 虫好きのドライブコース
- ・ 謎解き探検コース
- ・ クイズラリー
- ・ ジオを楽しむドライブコース
- ・ 指宿スカイラインの秘密体験テクニカルツアー（インフラツーリズム）
- ・ ライドを楽しむツーリングコース
- ・ 道路利用イベント

#### <沿道の魅力を増す>

指宿スカイラインの沿道の個性を「魅力」として整理し、それを活かして、四季を楽しめる森の区間、竹香る涼やかな区間、眺望区間など、各区間のテーマを設定して、それを意識した管理を実施するということについて整理した。「走っていて楽しい」「鹿児島森林（もり）を楽しむ」など、展望台や南薩の観光地に行くための道路ではなく、道路を走ることそのものが目的になるようにするために必要な事項を取りまとめた。

その結果、以下の5つの区間テーマを設定し、そのための演出や管理運営方法を提案した。

- ・ 竹林区間 : 「竹香る涼やかな緑を味わう道」
- ・ 針葉樹林区間 : 「人が育てた美しい森を感じる道」
- ・ 広葉樹林区間 : 「四季折々の姿を味わえる鹿児島の森の道」
- ・ 草原区間 : 「緑の風を感じる草原の道」「空に手が届く空見の道」
- ・ 眺望区間 : 「見はらしの道」

あわせて眺望維持の関係から重要な、沿道樹木の管理について、既存の伐採区間の植生回復状況等を調査して伐採の手間や費用を低減させる手法について検討した。眺望を確保する区間では、樹高を一定の高さ以上にしない管理方法が必要であるが、そのためには道路端からの距離に応じて以下のような方法が効果的である。

盛土側は道路端から

- 1～2m : ①頻度の高い伐採, ②剪定・間伐, ③薬剤散布④植栽による雑木抑制  
2～5m : ①頻度の高い伐採, ②剪定・間伐(補植), ③伐採時期・伐採位置の変更  
③再萌芽防止策(薬剤塗布など), ④薬剤散布  
5～12m : ①剪定・間伐(補植), ②伐採時期・伐採位置の変更, ③再萌芽防止策(薬剤塗布など), ④薬剤散布

切土側は道路端から

- 1～5m : ①頻度の高い伐採, ②間伐, ③薬剤散布, ④植栽による抑制

<周辺地域とのつながりを活かした魅力を増す>

ポイントラリーや割引キャンペーン、インフラカードの発行、GPS利用アプリなど、地域に存在する様々な観光施設や自然体験場所などにつながったり、指宿スカイラインそのものの利用を増加させることで、指宿スカイラインを動脈として南薩地域への観光客流入を促進する施策について整理した。

その結果、以下のような方策を提案した。

- ・広域スタンプラリーやクイズラリー
- ・コレクタブルカード(インフラツーリズム)
- ・スマホアプリによるセルフGPSガイドシステム<いぶすかガイド>
- ・メロディーロード